

報道関係者各位

2011年9月1日
issue+design実行委員会
神戸市デザイン都市推進室
株式会社 博報堂

10年後の被災地のために、デザインアイデアを市民から募集

震災復興+design

『できますゼッケン』を生んだ市民参加型プロジェクトissue+designによるデザインコンペ
被災地の課題を解決するアイデアを公募、優秀作はプロジェクト化・一般公開

神戸市デザイン都市推進室と博報堂らが推進する市民参加型ソーシャルデザインプロジェクト「issue+design」は、東日本大震災の被災自治体の10年後(2020年)を想定した、復興のための商品、サービス、空間、仕組みなどのアイデアを、広く市民から募集するソーシャルデザインプロジェクト「震災復興+design」を実施いたします。

issue+design とは、“社会の課題に、市民の創造力を”をテーマに、日本や世界各地で発生している社会課題をデザインの持つ美と共感の力で解決し、市民が安心して暮らせる社会の実現を目指すプロジェクトです。2008年の発足以来、震災をテーマとした活動に継続的に取り組んでおり、阪神・淡路大震災の教訓を生かすさまざまなアイデアを企画してきました。その一つである『できますゼッケン』は、避難所で生活する被災者やボランティアスタッフが「自分にできること」を宣言し、互いの助け合い行動を生み出すツールとして、現在も多くの被災地・避難所でご活用いただいています。

今回実施するデザインコンペは、「震災復興+design」をテーマに掲げ、広く市民からデザインアイデアを募り、その実現を目指します。募集期間は2011年10月1日から11月30日の2ヶ月間、応募条件や資格などの制限は一切ありません。

“震災復興”という共通のデザイン課題のもと、「震災の記憶」「復興プロセス」「産業・雇用」「生活・インフラ」「自由テーマ」の5つの部門を設置。震災・津波・原発事故の被害が大きい被災自治体の10年後の未来を思い描き、その実現の課題を発見し、実現するアイデアを募集します。

入賞作品は、被災自治体への提案、実現に向けたプロジェクト化を目指すほか、著作権フリーのデザインアイデアとしてあらゆる自治体、個人、団体にご活用いただけるよう一般公開を行う予定です。

自身のアイデアや知恵で被災地を支援したい、遠方からでも被災地復興の力になりたい、などの思いをお持ちのさまざまな方からのご応募をお待ちしています。issue+design プロジェクトは、市民の皆さんとともに被災地の未来のために取り組んでまいります。

デザインコンペ詳細 <http://issueplusdesign.jp> (twitter アカウント@iplusd より詳細情報を発信中)

お問合せ先: 株式会社 博報堂 広報室 山野 TEL:03-6441-6161
神戸市デザイン都市推進室内 本田 TEL:078-322-6575

(※本件は神戸市記者クラブ、東商記者クラブにて同時発表を行っております。)

<応募要項>

●デザイン課題

東日本大震災により、数多くの貴重な命が失われ、沿岸部のまちや集落は壊滅状態に陥りました。この震災で、我々日本人は「自然の猛威」と「科学の危うさ」を思い知らされました。同時に、「日本人の底力」と「つながりの大切さ」を実感したに違いありません。

10年後の2020年、この危機を乗り越えた先の被災地には、今までとは異なる新しい地域コミュニティが誕生するでしょう。そこには、どんな街が、住まいが、産業が、インフラが登場するでしょうか？

被災地が抱える中長期的な課題を発見し、その解決に必要な商品、サービス、空間、情報、仕組みのデザインを提案してください。皆さんのアイデアの積み重ねが被災地・東北の未来をつくります。

●募集テーマ

テーマ1 震災の記憶

今回の震災で、津波や地震に対して、日常から備えることの重要性が再確認されました。次の震災に備えて、家庭、地域、学校、行政などの防災対策(防災グッズ、避難訓練など)を充実させるために、住民同士の交流を増し絆を強め、緊急時の助け合い行動を促すために、震災の被害と経験を次世代への教訓として、被災地・日本・世界で継承するために、デザインは何が可能でしょうか。

テーマ2 復興プロセス

日本各地から多くのボランティアや専門職スタッフが被災地を訪れ、避難所の運営、瓦礫の撤去、物資の運搬などに貢献しました。しかし、これから長く続く復興プロセスの主役はあくまでそこに住み続ける地域住民です。地域住民を元気づけ前向きな行動を後押しするために、住民同士、住民と行政、住民と支援団体の対話の機会をつくるために、子どもから高齢者まで誰もが参加できる復興プロセスの実現のために、デザインは何が可能でしょうか。

テーマ3 産業・雇用

被災者の生活の建て直しに何よりも必要なものが「働き口」です。職の機会が減ることは地域の若者の流出にもつながります。地域の基盤産業である農業・水産業の復興のために、観光業を盛り上げ国内外からの集客を取り戻すために、地域の顔である中心市街地の賑わいを取り戻すために、大量の瓦礫の撤去と活用のために、風評被害をなくすために、デザインは何が可能でしょうか。

テーマ4 生活インフラ

漁村、農村部中心の被災自治体では、今回の震災で人口減・高齢化に拍車がかかることが懸念されます。地域で孤立しがちな高齢者や障害者などの日常生活を支えるために、医療・福祉面をサポートするために、買い物・医療などの移動手段を確保するために、地域の防災情報・復興情報を円滑に伝えるために、孤独死を防ぎ近隣とのつながりを保つために、デザインは何が可能でしょうか。

テーマ5 自由テーマ

以上の4つのテーマ以外でも、震災後の地域コミュニティは多数の課題を抱えるでしょう。2020年に向けて、あなたが重要だと考える課題を解決するために、デザインは何が可能でしょうか。

●対象デザイン

課題解決に必要なプロダクト、サービス、場、仕組み、政策、空間、建築、ランドスケープ、まちづくり、グラフィック、ウェブなど領域は問いません。

●賞金・副賞

入賞 5 点 各震災復興支援金 30 万円他

*今年度の賞金は震災復興支援金と位置づけ、応募者自らがそのアイデアを実現するための事業費用、制作費用、NPO等の支援費用、被災地への義捐金など、復興支援に使用頂く資金としてご提供いたします。

●審査方法

1 次審査:デザイナー(HAKUHODO DESIGN 永井一史氏、studio-L 山崎亮氏他)、研究者、被災地の行政・企業・NPO 関係者など、震災復興に関する様々な立場の審査員が「被災地への貢献度」「実現可能性」「創造性・審美性」の3指標より選考いたします。

最終審査:上記審査員評価と市民投票の合計で選考いたします。

●日程

デザイン提出	2011 年 10 月 1 日～11 月 30 日
1 次審査	2011 年 12 月上旬
1 次審査通過連絡	2011 年 12 月中旬
最終提案	2012 年 01 月中旬
市民の声と投票	2012 年 02 月上旬～
最終審査会	2011 年 02 月下旬
審査結果公表	2011 年 03 月

●注意事項

本プロジェクトは東日本大震災の復興支援のために実施されるため、応募されたアイデアは被災地関係者誰もが使用可能なコモンズと位置づけ、全て書籍やウェブサイト上で公開されることをご承知の上、ご応募ください。

主催 : issue+design 実行委員会

共催 : 神戸市

運営 : 博報堂イノベーション・ラボ

hakuhodo+design

studio-L

FELLISSIMO

< 参考資料 >

● issue+design とは

神戸市の震災 15 年およびユネスコデザイン都市認定記念の市民参加型ソーシャルデザインプロジェクトです。生活者の皆さんの声を集め、解決すべき社会課題を発見し、デザインコンペとワークショップで解決アイデアを募ります。本プロジェクトから生まれたいくつものアイデアが実際の社会課題解決のために実現しています。2008 年度に実施したプロジェクト「避難所+design」からは、東日本大震災支援ツール「できますゼッケン」が生まれ、気仙沼市、釜石市、石巻市他の被災地でご活用いただいています。



個人のスキルを可視化しボランティアを支援する
「できますゼッケン」(08 年プロジェクトより)



date	time	name	price
2011.01.23	11:00	グレープフルーツ	100
		りんご	250
2011.02.03		牛乳	174
2011.04.05		即席ふくろ糠	214
2011.04.08		おかき	100
2011.04.26		ポテトチップス	100
2011.11		アーモンドチョコ	215
2011.11		キャンディー	198
2011.10		紅茶	350
		アイスクリーム	100
		雑米	1,500
		惣菜	400
		合計	¥ 3,751
		お預り	¥ 4,051
		お釣り	¥ 300

食品廃棄物削減のために賞味期限を管理する
「食品管理レシート」(10 年プロジェクトより)

●ユネスコデザイン都市・神戸

ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)は、文化的な産業の強化により都市の活性化をめざすため、2004 年に創造都市ネットワークを創設。神戸市は 2008 年にデザイン領域で認定され、市民・NPO・教育機関・専門家・経済界・行政が連携し、デザインの力による産業育成や市民生活の課題解決に取り組んでおります。

●博報堂イノベーション・ラボ

市場、生活、地域、企業の未来像の洞察やデザイン開発を行う博報堂内の専門集団。変化の兆しを読み取り、未来シナリオを作り出す「未来洞察」、生活文化に根ざした潜在ニーズを探索する「エスノグラフィ調査」、アイデアを政策やビジネス化する「デザイン開発」の3つで、地域、企業、社会のイノベーションの実現を目指します。

●hakuholdo+design

(株)HAKUHODO DESIGN 社長の永井一史をリーダーとして、日本及び世界が抱える社会課題の解決と新たな生活提案に向けて広義のデザインの持つ可能性を研究し、実践していく博報堂の社内プロジェクト。神戸市デザイン都市推進室とともに issue+design プロジェクトを発足。共著『震災のためにデザインは何か』(NTT出版、2009 年)の刊行、日本ユニセフ協会と共同での『TAP PROJECT 2011 東日本大震災緊急募金』などの活動実績がある。